

戦略的創造研究推進事業
(社会技術研究開発)
平成29年度研究開発実施報告書

「安全な暮らしをつくる新しい公／私空間の構築」

研究開発領域

「トラウマへの気づきを高める

“人 - 地域 - 社会” によるケアシステムの構築」

大岡 由佳

(武庫川女子大学短期大学部、准教授)

目次

1. 研究開発プロジェクト名	2
2. 研究開発実施の具体的内容	2
2 - 1. 研究開発目標	2
2 - 2. 中間達成目標	3
2 - 3. 実施内容・結果	4
2 - 4. 会議等の活動	13
3. 研究開発成果の活用・展開に向けた状況	13
4. 研究開発実施体制	14
5. 研究開発実施者	16
6. 研究開発成果の発表・発信状況、アウトリーチ活動など	19
6 - 1. シンポジウム等	19
6 - 2. 社会に向けた情報発信状況、アウトリーチ活動など	19
6 - 3. 論文発表	19
6 - 4. 口頭発表（国際学会発表及び主要な国内学会発表）	20
6 - 5. 新聞報道・投稿、受賞等	20
6 - 6. 知財出願	20

1. 研究開発プロジェクト名

「トラウマへの気づきを高める “人 - 地域 - 社会”によるケアシステムの構築」

2. 研究開発実施の具体的内容

2 - 1. 研究開発目標

【達成しようとする目標】

TIC（トラウマインフォームドなケア）の概念を土台に、バーチャル実践、地域実践、医療実践を行うことにより、人や地域、そして社会を変えていくことに目標に置く。具体的な目標は以下の通り。

1)バーチャル（WEB）実践

グループ名：公私をつなぐバーチャル・ワンストップ支援センターグループ（公私をつなぐバーチャルG）

- ・ワンストップ支援センター調査により性暴力被害者支援の現状把握および包括的行政関与の必要性を提言
- ・メール相談の実施により、ネット空間から現実世界の支援につなげるノウハウ蓄積
- ・WEB実践の有効活用・普及の手立ての提案

[成果の受け手]

- ・実際に性暴力被害にあった当事者；様々な情報から自身に必要な情報を選択し相談に至ることができる。
- ・被害者支援を行う支援者ならびに地方公共団体の施策担当者；最新の情報を相互に交換できる。

[評価指標]

「バーチャル・ワンストップ支援センター」の評価数値＝アクセス数と分布が評価指標となる。（数値目標：年間10000カウント）

2)地域実践

グループ名：潜在的な子ども被害・学校対応グループ（潜在的な子ども被害・学校対応G）
教職員の対応研修グループ（教職員の対応研修G）
SDoH地域資源連携グループ（SDoH地域資源連携G）

- ・学校における潜在的な子ども被害実態の明確化とその対応方法の確立
- ・教職員および地域で子どもにかかわる大人への性暴力被害の早期発見・早期対応（二次予防）
- ・女性支援に関わる地域社会資源の連携システム（SDoH）構築

[成果の受け手]

- ・教職員（養護教諭など）；学校で不適応を起こした子どもたちの理解につながる。子ども；学校でトラウマを有した子どもたちが支援につながりやすくなる。
- ・地域の行政支援機関等；社会的孤立女性が不安定なまま妊娠、出産するケースを未然に防ぐことにより支援にかかる負担が軽減される。

[評価指標]

- ・学校教師の研修実施 年3回開催
- ・学校及び地域の子供が集まる施設、養護施設等での研修（年5・6回）
- ・学校における性被害対応ガイドライン作成・提言
- ・社会資源連携会議を初回以降4ヶ月ごとに開催

3)医療実践

グループ名：病院のソーシャルワーク機能拡充グループ（病院のSW機能拡充G）
病院でのフィールドワークグループ（病院でのフィールドワークG）
性暴力被害者支援医療マニュアルグループ（性暴力被害者支援医療マニュアルG）

・産婦人科での社会的孤立患者の数・質分析と社会的孤立患者抽出の為のチェックリスト開発

- ・女性支援SWチーム養成講座の確立と全国展開
- ・急性期対応マニュアル作成

[成果の受け手]

- ・総合病院産婦人科に受診した社会的孤立女性;エンパワメントされて支援を受けやすくなり、より社会的な健康を得て次世代育成への準備が可能となる。
- ・医療者;適切な対応のヒントが得られ、結果的に疾病治療にも専念しやすくなる。
- ・司法執行機関;改正刑法や司法面接の知見も盛り込んだ日本で初の対応マニュアルの作成によりトラウマに配慮した急性期対応がしやすくなる。

[評価指標]

- ・産婦人科医、助産師、看護師、医療ソーシャルワーカーなどの専門職を対象としたソーシャルワークチーム養成講座をシリーズ開催
- ・ソーシャルワークチーム養成講座の教科書化、DVD化→日本産科婦人科医会、プライマリケア連合学会、日本医療社会福祉協会との連携による全国展開
- ・ソーシャルワークチーム機能による医療者負担の変化に関する質的分析
- ・急性期対応マニュアルの使用後アンケート実施とその検証

◎トラウマインフォームドな視点の共有

グループ名：トラウマインフォームド (TIC) 研修グループ (トラウマインフォームド (TIC) 研修G)

- ・TICの海外技術知見の普及
- ・TIC研修の実施と効果の検証

[成果の受け手]

- ・対人援助職 (MSW、PSW等) ; TIC対応ができるようになることで、支援がスムーズに行える。
- ・当事者;周囲の支援者が適切な対応をすることで、二次被害が軽減される。

[評価指標]

- ・TIC研修、研修 (前後) 評価の実施 (年2回)

2 - 2. 中間達成目標

(1) バーチャル (WEB) 実践

- ・全国のワンストップ支援センター調査実施とその地域特性分析
- ・バーチャルからリアルへつなぐ仕組みを模索し、WEBの整備
- ・メール相談、カード配布、市民講座、各地 (特に郡部) でのワークショップ等の実施 (各地域で1回)

(2) 地域実践

[潜在的な子ども被害・学校対応G]

- ・学校子どものトラウマへの気づきを促す研修を中学校 (既に内諾済) で行い、公・私の隔たりを明らかにする

[教職員の対応研修G]

ワークショップ (ひょうご性教育研究会と合同) 研修の実施および学校や地域での研修による実践、他PJや研究会との交流

[SDoH地域資源連携G]

- ・Social Determinant of Healthの諸項目を改善する可能性がある、京都市内で利用できる社会資源をできるだけ多く調査し、地域社会資源をまとめたHPの作成

(3) 医療実践

[病院でのフィールドワークG]

- ・トラウマインフォームド・ソーシャルワークチーム養成カリキュラムの項目設定

[病院のSW機能拡充G]

- ・社会的孤立患者センサーシステム（産婦人科用）開発
- ・虐待、DV、特定妊婦支援に関わるMSWへのインタビュー調査の実施

[性暴力被害者支援医療マニュアルG]

- ・医療現場におけるDV産科調査の実施
- ・ワーキンググループメンバー決定の上、マニュアル内容のワーキンググループ開催、マニュアル完成

◎トラウマインフォームドな視点の共有

- ・TICの海外技術研修受講
- ・TIC専門家の招聘研修の実施

2 - 3. 実施内容・結果

(1) 実施内容

今年度の到達点①

(目標) 性暴力被害者支援情報に関わるWEB整備

[公私をつなぐバーチャルG]

実施項目①-1：バーチャルワンストップ支援センターおよびメール相談体制整備

実施内容：

- ・平成28年度内閣府モデル事業内容「バーチャル・ワンストップ支援センター」とその後の経緯について内閣府、兵庫県の各担当者とは電話および書面で確認を行った。
- ・関係支援機関の連携強化会議について、平成29年度は兵庫県の担当者と調整がつかず、平成30年度は情報更新のための顔の見える会議を兵庫県警察と設定し、民間支援団体も含めたネットワークを強化する予定である。
- ・WEB「バーチャル・ワンストップ支援センター」内での関係支援機関アップロードを行った。

実施項目①-2：メール相談のフレームワークおよび分析項目の検討

実施内容：

- ・メール相談について、セキュリティおよび個人情報保護の整備を行った。メール相談専用のパソコン端末を整備し、兵庫県立尼崎総合医療センターの院内ネットワークを経由してアクセスすることによりセキュリティ上のリスク低減を行った。またパソコンの保管や記録の取り扱いについても明示した。
- ・メール相談の特性や達成する目標について、NPO法人性暴力被害者支援センター・ひょうごの担当者で討議を行った。ケース検討会を開催し、臨床心理士よりスーパーバイズを受けた。

今年度の到達点②

(目標) 近年のワンストップ支援センターによる性暴力被害者支援の実態を把握する。

[公私をつなぐバーチャルG]

実施項目②-1：全国のワンストップ支援センター（プレ）調査

実施内容：

・全国の性暴力被害者支援ワンストップセンターインタビューの予備調査として、平成30年1月から平成30年3月まで近畿4府県（兵庫、滋賀、和歌山、京都）の性暴力被害者支援団体の担当者と面談し、地域特性、施設特性（病院拠点／相談連携）、背景特性（犯罪被害者支援／警察／男女共同参画／民間支援団体等）、強み／弱み／めざすワンストップ支援センター像、ICTの活用状況等についてヒアリングを行った。

[公私をつなぐバーチャルG][SDoH地域資源連携G]

実施項目②-2：当事者（兵庫：性暴力被害、京都：特定妊産婦）に絡んでくる関係機関の実態を把握

実施内容：

（兵庫）WEB上に必要な社会資源調整を行うべく、第一回目の連携強化会議開催企画案を兵庫県警等と練った。会議自体は、2018年5月開催予定となった。

（京都）性暴力被害者支援については、これまで京都府性暴力被害者ワンストップ相談支援センター 京都SARAの準備時から築いてきた連携を明示した。本プロジェクトでは特定妊産婦の支援の観点から社会資源調査を行なう方針とした。（実施項目⑥参照）

今年度の到達点③

(目標) 平成30年度実施の学校における子どもの被害のフレームを確定する。

[潜在的な子ども被害・学校対応G]

実施項目③-1：有識者会議

実施内容：

虐待、DV等の専門家等を徴集し、有識者会議を実施することで、トラウマ体験（虐待や性被害を含む）を有した子ども被害の研修フレームを検討した。その結果、トラウマインフォームドな視点で子どもをみるためのパンフレット作製を行うことになり、実務者（教員）、実践家（小児科医師・精神科医師）、研究者（心理、福祉）らで複数回のパンフレット作製会議を開催し、パンフレットを発行した。それらのパンフレット普及については、教育委員会、尼崎圏域の全学校教員等に配布する段取りを整えた。

[教職員の対応研修G]

実施項目③-2：ワークショップを実施

実施内容：

「子どもに関わる身近な大人に被害が相談されたときの適切な対応を学ぶ」研修の土台作りを2017年11月2日、ひょうご性教育研究会と県立尼崎総合医療センター（RISTEX大岡プロジェクト「教職員の対応研修グループ」）の主催でワークショップ形式で実施した。アドバイザーとして仲PJから研究者ら、および“人間と性”教育研究協議会¹幹事である大学教員を招き、助言を受けた。

¹ “人間と性”教育研究協議会（性教協）は「科学・人権・自立・共生」の4つのキーワードをもとに、子どもの切実な要求にこたえ、正確な情報を伝え、子どもとともに「性」のあり方や生き方を考えて、たくさんの性教育の実践を積み重ねてきたサークル

今年度の到達点④

(目標) 医療現場における当事者の特性把握や、当事者を取り巻く課題を明らかにする。

[病院のソーシャルワーク拡充機能G]

実施項目④-1：社会的孤立患者の特定化

実施内容：

文献収集や学会参加により社会的孤立患者の特定ツールとしてBH-works®を知り版権についてmdlogix社と交渉した。並行して、京都市子ども若者はぐくみ室や京都府健康福祉部、京都府産婦人科医会などに京都市における特定妊婦の現状と支援の実態について聞き取り調査を行ない、産婦人科外来で社会的孤立女性に対して熱心にソーシャルワークをしている医療者、MSWに対するインタビューを開始した。

[性暴力被害者支援医療マニュアル作成G]

実施項目④-2：性暴力被害者急性期医療マニュアルのワーキンググループ

実施内容：

性暴力被害者が産婦人科等に来院した際に、二次被害を与えることなく、対応できる情報とスキルを専門家が共有する必要があった。それらのマニュアル作成に向けて、第1回ミーティング（2018年2月）を行い、マニュアル内容について検討し、執筆担当を分担した。

今年度の到達点⑤

(目標) トラウマインフォームドの概念を広げる土壌を形成する。

[トラウマインフォームド (TIC) 研修G]

実施項目⑤：TIC（トラウマインフォームド・ケア）の海外技術研修の実施。

実施内容：

- ・実施者・協力者として集まった、医療関係者、司法関係者、福祉関係者、教育関係者等でTICの知見検討会を2回にわたり実施した。
- ・海外のTIC研修の選定、海外渡航調整を行った。29年度の海外研修は予算承認の関係から実施できなかったが、30年度秋に海外研究者を招聘して研修を実施することになった。具体的には、北米のTI-Med(Trauma Informed- Medical Care)と呼ばれる効果が検証されているトラウマの研修を本邦でも取り入れ効果を測定していく予定である。
- ・コミュニティートラウマに先駆的に取り組むオーストラリアの精神科医からトラウマに関するスーパーバイズを受ける調整を行った。

今年度の到達点⑥

(目標) 社会的孤立女性を支援するための地域社会資源を調査する。

[SDoH地域資源連携G]

実施項目⑥：現行のネットワークや関係機関のリストアップと課題の検討。

実施内容：

女性相談、DV相談、性暴力被害者相談支援、児童虐待防止、子育て支援、自殺予防

など社会的孤立女性の支援に関わる既存の連携会議等についてリストアップし、会議に参加、傍聴した他、関係機関へのヒアリングも行った。

(2) 成果

今年度の到達点①

(目標) 性暴力被害者支援情報に関わるWEB整備

[公私をつなぐバーチャルG]

実施項目①-1：バーチャルワンストップ支援センターおよびメール相談体制整備

成果：

- ・平成28年度内閣府モデル事業の窓口であった病院局から地域安全課へのWEB等財産移管がなかったため所有権は兵庫県にないと考えられると平成30年2月に地域安全課課長より回答があり、「バーチャル・ワンストップ支援センター」に関して所管が整理された。
- ・他府県でも性暴力被害者支援連携会議は開催されており（京都府）、会議参加団体の情報（素材）をもとに「バーチャル・ワンストップ支援センター」が展開できるようなシステム（アプリ）の開発を検討した。
- ・また、現在のWEBは成人が利用することを想定した内容となっているため、10代の若者に向けた「バーチャル・ワンストップ支援センター【プチ】」（仮）を考案し、中学生から高校生にユーザー評価をもらう予定である。

実施項目①-2：メール相談のフレームワークおよび分析項目の検討

成果：

- ・医療機関のネットワークに組み込まれることによって、メール相談の安全性が向上した。
- 平成29年10月から平成30年3月までのメール相談はのべ17件、相談者は13人であった。居住地は兵庫県内が6人、県外が7人であり、平日昼間（9:30-16:30）の着信が6件に対し、夜間・休日が11件であった。以上より「いつでもどこからでも相談ができる」メール相談の利便性が明らかになった。また、メールから電話や面接相談につながった事例もあり、信頼関係ができ、条件と相談者の要望が合えば直接支援につながる可能性が示唆された。
- ・一方、メールは文字のみの限定的なやりとりであるため、返信を複数で見直すなどルールと相談目標を設定することによって相談の質の向上を図った。
 - ・課題としては広報・周知が挙げられる。現在はメール相談の案内が「バーチャル・ワンストップ支援センター」とNPO法人性暴力被害者支援センター・ひょうごのホームページのみであるため、とくに若年世代に向けてハンドアウト用のカードを作成して学校やイベントで配布してもらう予定である。

今年度の到達点②

(目標) 近年のワンストップ支援センターによる性暴力被害者支援の実態を把握する。

[公私をつなぐバーチャルG]

実施項目②-1：全国のワンストップ支援センター（プレ）調査

成果：

インタビューに先立ち、ワンストップセンター全国調査（量的調査）を平成28年に行った研究者より調査に関する助言をもらった。すなわち「ワンストップ支援」がシステムとなるためには、各都道府県のセンターの共通点と相違点を明らかにすること、全国的な利用状況の把握が必要である。将来的には性暴力被害者支援法が不可欠であり、その根拠となる数字やエビデンスを挙げていく全国的な動きが必要であるが、現状は多様なセンターが混在しており、横並びにデータを出すことができていない。以上を受け、隣接する近畿4府県（5団体）のワンストップ支援センターに赴き、半構造化面接を行いSWOT分析で評価した。設立母体や拠点病院の有無によって、支援内容の中心（強み）が医療・法律・カウンセリングと異なっていたが、可能な限り被害者がたらいまわしにならずに支援が受けられるよう、それぞれが独自の工夫でサービスを行っていた。4府県とも、広域を1か所のセンターでどうカバーするかは課題であり、インターネットでの支援検索システム「バーチャル・ワンストップ支援センター」は高く評価された。メール相談は専従者をおけない現状ではショートメール以外には難しいとの回答がほとんどであった。

[公私をつなぐバーチャルG][SDoH地域資源連携G]

実施項目②-2：当事者（兵庫：性暴力被害、京都：特定妊産婦）に絡んでくる関係機関の実態を把握

成果：

- （兵庫）平成30年5月に連携強化会議を開催予定
- （京都）実施項目⑥参照

今年度の到達点③

（目標）平成30年度実施の学校における子どもの被害のフレームを確定する。

[潜在的な子ども被害・学校対応G]

実施項目③-1：有識者会議

成果：

- ・研究実施者、協力研究者、現場の学校職員等とともに会議を行い、学校にTICの枠組みを入れていく必要性について確認した。実際の学校現場では、子どもはトラウマを多く抱えているだろうことが確認されたが、発達障害との兼ね合いで分かりづらかったり、他の要因（保護者、周囲の友人等）によってさまざまな問題行動が起こっていることが明らかになった。子どもの被害フレームを確立するには、教員の年齢層が若年化（20代、30代が大半を占める）しているため、教員の教育・啓発研修も欠かせないことが確認された。
- ・TICの視点を学校現場に普及していくための媒体として作成したTIC学校パンフレットを、今後、中学校で活用していくことにしており、実際の精神保健相談や研修を複数回実施する中で、教育現場にTICの視点をどれほど広めていけるかについて社会実験を行っていくことにした。

[教職員の対応研修G]

実施項目③-2：ワークショップを実施

成果：

・ワークショップでは、性教育を受ける学校側のニーズや視点（公）と、提供する側の「伝えたいこと」（私）の隔たりをできるだけ縮めるためには、率直に意見を交わせる開かれた場が必要であることが確認された。同時に、研修先の学校や地域の特性を把握しつつ、パワーポイントの内容や研修の進め方など一層工夫していく必要があることも明らかになった。

・その後の研修では、当該学校や地域の特性を踏まえ、事前・事後アンケートを実施し理解度を「見える化」したり、架空事例に基づいたグループワークを取り入れるなどして実施することができた。福崎町の小学校でのアンケートでは「職務に役立つ内容」と回答した人が89%であった。

研修後のフィードバックやアンケートなどから見えてきた課題として以下の点を挙げる。

- ・ 子どもの特性を理解した関わりの研修
- ・ 子どもからの安全な聞き取りの研修
- ・ 家族内の被害、学校内での被害、学外での被害、大人からの加害、子どもから子どもへの加害、女子、男子、性別違和を抱える子どもたちなど、さまざまな状況を想定した性暴力被害対応ガイドラインの必要性
- ・ 教職員や保護者へのケア

今年度の到達点④

（目標）医療現場における当事者の特性把握や、当事者を取り巻く課題を明らかにする。

[病院のソーシャルワーク拡充機能G]

実施項目④-1：社会的孤立患者の特定化

成果：

・京都市子ども若者はぐくみ室ならびに京都府健康福祉部、京都産婦人科医と協力体制を構築した。この中で社会的孤立患者の特質は多様で変容することから特定することの意味は薄く、すべての患者に十分なSWを行なう下地を作ることが重要との見解に至ったため、BH-works導入は中止した。

・次年度は社会的孤立患者の要因分析ではなく、病院のSW実態調査を行い、職員のSW不足の要因を見出すこととし、webアンケートの準備を行なった。

・インタビューにて、社会的孤立女性へのSWのコンピテンシーとして、カウンセリング能力、トラウマへの理解、問題解決能力などが示唆された。

[性暴力被害者支援医療マニュアル作成G]

実施項目④-2：性暴力被害者急性期医療マニュアルのワーキンググループ

成果：

・第1回のミーティングを行い、支援・捜査の立場から医療機関に求める事を具体的に聴取し、マニュアル作成の課題を確認した。

・医療側からは、対応が必要で有ると考えられる各科の代表に参加して頂き、各科の対応の現状と課題について意見交換を行った。

- ・マニュアルに記載する内容に、広く周知すべき内容とすべきで無い内容が混在しており、2段階のマニュアルの必要性が考えられた。
- ・今後、スピード感を以て、マニュアル作成を進めていくにあたって、内容の整理が出来た。

今年度の到達点⑤

(目標) トラウマインフォームドの概念を広げる土壌を形成する。

[トラウマインフォームド (TIC) 研修G]

実施項目⑤: TIC (トラウマインフォームド・ケア) の海外技術研修の実施。

成果:

- ・日本のTIC研究・実践を先駆的に進めている精神科医師らや心理士や、ステイクホルダーとして兵庫県、兵庫県警、兵庫県尼崎総合医療センター副院長等からコンサルテーションをもらい、今後の方針を検討した。
- ・地域のTICに関係する、関心を持つ実施者・協力者で、地域におけるTIC概念普及のための媒体 (SNS等) の活用やTIC啓発パンフレットが必要であることを確認した。
- ・海外 (北米) では、国家戦略としてTIC (トラウマインフォームドケア) が進められていることを確認した。様々な機関がTICの研修を打ち出しており、複数の関係機関と連絡をとり、本邦により適合するTIC研修を特定していった。
- ・H30年度に海外研究者を招聘し、日本に合うTICの枠組みを検討していくことになった。海外から招聘するTIC技術研修は以下のとおりである。
 1. TI-Med(Trauma Informed-Medical Care): 北米のジョージタウン大学で開発されたTIC研修プログラムである。海外研修開発者を招聘し、地域の医療スタッフ対象に研修を行ってもらう予定である。
 2. "Trauma, Creating Safe Space": オーストラリアの精神科医の協力を得て、アートを利用しつつ地域のトラウマインフォームドなりカバリーを目指す知見を本邦の実践に織り交ぜていく。

今年度の到達点⑥

(目標) 社会的孤立女性を支援するための地域社会資源を調査する。

[SDoH地域資源連携G]

実施項目⑥: 現行のネットワークや関係機関のリストアップと課題の検討。

成果:

- ・目指すネットワークのあり方につき検討した。従来型の公私を交えた連携会議では、具体的な事例を支援するための有機的な意見交換が行われる場合は必ずしも多くなく、また個人情報保護の観点から実際の事例を扱うことは困難であると判断し、顔の見えるゆるやかなネットワーク作りのための学習会の開催などが候補となった。
- ・医療現場や保健指導現場の現状の聞き取りをした結果、TICの視点が導入されていない現状では事例の「発見」が困難であることがわかった。よく見る仮想事例を設定し、異なる立場の支援者から意見を出し合うことで社会資源のリストアップを行うこととした。
- ・関係機関へのヒアリングの結果、HPの作成については、情報を誰に対してどのよ

うな形で提供することが地域の社会資源連携のために有効であるかを踏まえて再考している。

(3) 当該年度の成果の総括・次年度に向けた課題に

プロジェクト全体のタイトルである「トラウマへの気づきを高める“人 - 地域 - 社会”によるケアシステムの構築」に向けて、それぞれの研究グループが、当初予定していた計画に基づき、概ね順調に研究開発に従事した。ただ、関係機関を巻き込んだ実践研究の部分では、H29年度後半からの研究開始であったために、予定等が立ちづらく、会合や、シンポジウム、研修開催を実施が難しく、H30年度に持ち越しになった企画もあった。

また、“社会全体がトラウマインフォームドに変化し、様々な傷つきを抱える当事者のトラウマを軽減し、包摂できる共生社会”を、私たちが目指すビジョンとしているが、その実現に向けて、研究グループが最新のトラウマインフォームドケア

(TIC) の概念を念頭に実践研究を進めていく必要性が確認されたため、H30年度にはTICの概念を中心とした企画共有の仕組み（シンポジウム等）を実施していくことにしている。

(4) スケジュール

実施項目	平成29年度	平成30年度		平成31年度	平成32年度
			進捗アセスメント		
公私をつなぐバーチャルG 実施項目①ワンストップ支援センター全国調査					
公私をつなぐバーチャルG 実施項目②関係機関拡充・連携体制の確立					
公私をつなぐバーチャルG 実施項目③ネット相談実証実験					
性暴力被害者支援医療マニュアルG 実施項目①DV産科調査／マニュアル作成					
性暴力被害者支援医療マニュアルG 実施項目②研修実施					
潜在的な子ども被害・学校対応G 実施項目①学校実態調査・子ども研修					
教職員対応研修G 実施項目①教職員研修開催					
トラウマインフォームド (TIC) 研修G 実施項目①海外技術導入・研修プログラム開発					
トラウマインフォームド (TIC) 研修G 実施項目②MSW・PSW等研修					
病院のSW機能拡充G 実施項目①社会的孤立患者センサーシステム開発					
病院でのフィールドワークG 実施項目①産婦人科での社会的孤立患者の数・質分析					
SDoH地域資源連携G 実施項目①地域における社会資源調査					
病院でのフィールドワークG 実施項目②ソーシャルワークチーム養成・実証					
SDoH地域資源連携G 実施項目②SDoH社会資源連携会議					
病院のSW機能拡充G 実施項目②ソーシャルワークチームの効果検証とシステム改善					

2 - 4. 会議等の活動

年月日	名称	場所	概要
平成29年11月2日	第9回ひょうご性教育研究会 教職員対応研修 ワークショップ	神戸市勤労会館403	「子どもに関わる身近な大人が性被害を相談されたときの適切な対応を学ぶ」研修の土台作りを行った。
平成29年11月25日	妊産婦ケアを理学療法士と考えるPhysical Therapy in Obstetrics ; PTO	京都大学医学部附属病院臨床第一講堂	近畿・北陸圏の産婦人科医師、助産師、理学療法士など計60名が参加し、妊産婦の不調や痛みに対してチームで取り組む試みを話し合った。
平成30年1月6日	大岡PJキックオフ トラウマへの気づきを高める “人・地域・社会”によるケアシステムの構築	尼崎総合医療センター 1階講堂	プロジェクトのキックオフとして、ホワイトボードミーティング ^{®2} の手法を用い、プロジェクトの方向性と目指すものについて確認を行った。実施者を中心に約30名の参加があった。
平成30年1月15日	妊娠期から虐待・DVを予防する支援システムとは	京都大学医学研究科G棟セミナー室A	藤原PJの取り組みについて、病院のSW拡充G、病院のフィールドワークGの構成員ならびに京都市の行政保健師など24名が集い、学んだ。

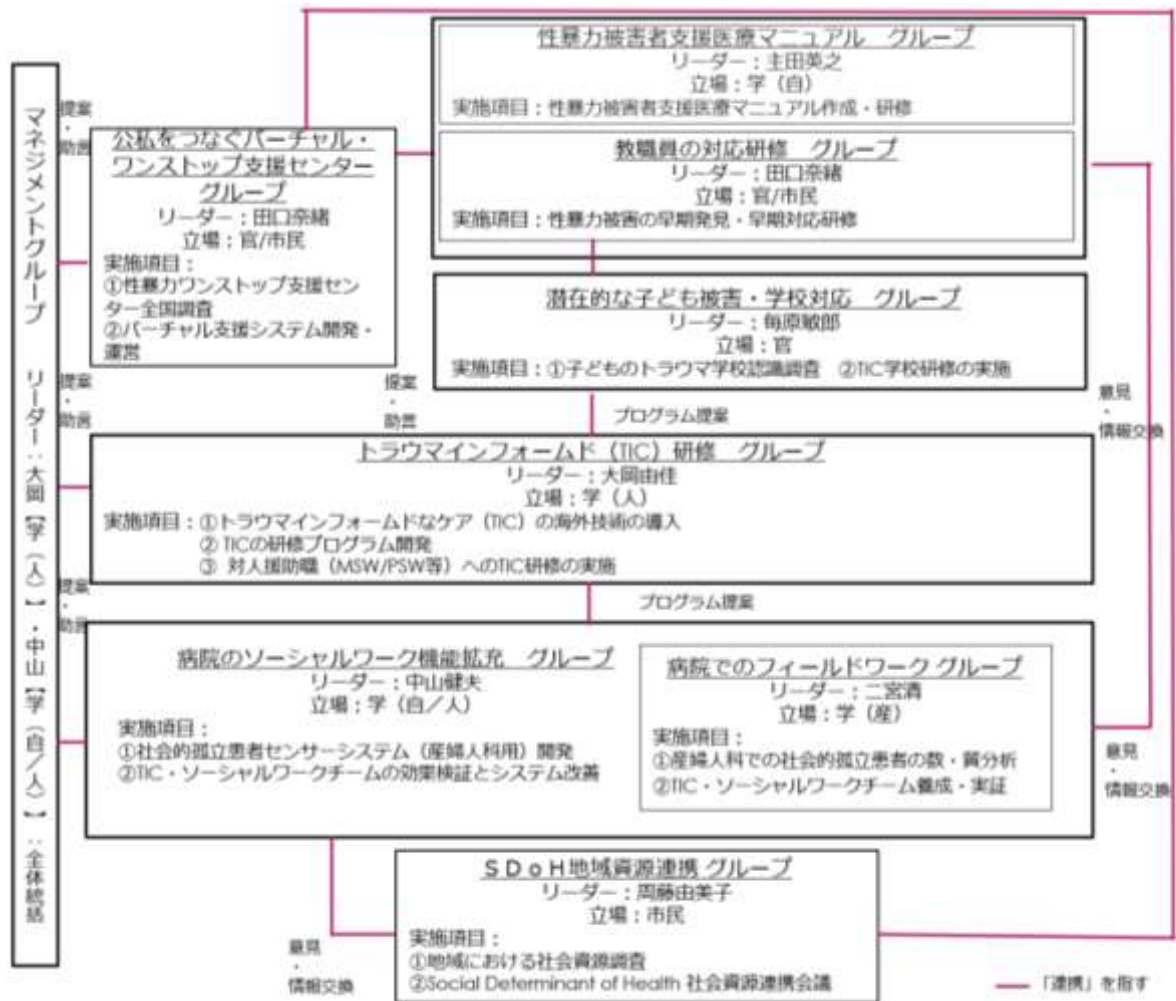
3. 研究開発成果の活用・展開に向けた状況

H29年後半からの研究開発であり、本格的なシステムの利用や社会実験は、H30年度以降に計画している。

² ホワイトボードミーティング[®]とは、2003年にちよんせいこ氏が開発した効率的・効果的な話し合いの手法。医療、福祉、教育、市民活動など、異なる領域の人々が集まって進める多職種協働の現場において、互いの強みを生かしながら、エンドユーザー（最終利益享受者＝当事者）に有益な話し合いを進める方法である。

4. 研究開発実施体制

- (1) 公私をつなぐバーチャル・ワンストップ支援センター グループ
- ①田口奈緒（兵庫県立尼崎総合医療センター、産婦人科部長）
 - ②実施項目1：性暴力被害者支援情報に関わるWEB整備
 - 実施項目2：性暴力被害者支援をめぐる関係機関の現状とこれまでの経緯を把握
 - 実施項目3：全国のワンストップ支援センター調査
- (2) 潜在的な子ども被害・学校対応 グループ
- ①毎原敏郎（兵庫県立尼崎総合医療センター、小児科科長）
 - ②実施項目：有識者会議を実施
- (3) 教職員の対応研修 グループ
- ①田口奈緒（NPO法人性暴力被害者支援センター・ひょうご、理事長／兵庫県立尼崎総合医療センター、産婦人科部長）
 - ②実施項目：教職員及び地域で子どもに関わる大人への性暴力被害の早期発見・早期対応（二次予防）
- (4) 病院のソーシャルワーク機能拡充 グループ
- ①中山健夫（京都大学大学院、医学研究科教授）
 - ②実施項目：医療機関における社会的孤立患者の実態調査
- (5) 性暴力被害者支援医療マニュアル グループ
- ①主田英之（兵庫医科大学、法医学講座講師）
 - ②実施項目：急性期医療マニュアルの構成確定
- (6) SD○H地域資源連携 グループ
- ①周藤由美子（ウィメンズカウンセリング京都、京都SARAスーパーバイザー）
 - ②実施項目：社会的孤立女性を支援する地域の社会資源の調査及びネットワークのための学習会の実施
- (7) トラウマインフォームド（TIC）研修 グループ
- ①大岡由佳（武庫川女子大学短期大学部、心理・人間関係学科 准教授）
 - 実施項目：TICの海外技術研修の実施



※上記図では、研究期間3カ年の実施項目を明記

5. 研究開発実施者

研究グループ名：マネジメントグループ

氏名	フリガナ	所属機関等	所属部署等	役職 (身分)
大岡由佳	オオオカ ユウカ	武庫川女子大学	短期大学部心理・ 人間関係学科	准教授
中山健夫	ナカヤマ タケオ	京都大学大学院	医学研究科	教授
池田裕美枝	イケダ ユミエ	京都大学	医学部附属病院 産科婦人科	特定研究員

氏名	フリガナ	所属機関等	所属部署等	役職 (身分)
田口奈緒	タグチ ナオ	兵庫県立尼崎総合 医療センター	産婦人科	部長
福岡ともみ	フクオカ トモミ	NPO 法人性暴力被 害者支援センター・ ひょうご	事務局	事務局長

氏名	フリガナ	所属機関等	所属部署等	役職 (身分)
毎原敏郎	マイハラ トシロウ	兵庫県立尼崎総合 医療センター	小児科	科長
大岡由佳	オオオカ ユウカ	武庫川女子大学	短期大学部心理・ 人間関係学科	准教授
浅井鈴子	アサイ レイコ	兵庫県立尼崎総合 医療センター	小児科	相談員
田口奈緒	タグチ ナオ	兵庫県立尼崎総合 医療センター	産婦人科	部長
福岡ともみ	フクオカ トモミ	NPO 法人性暴力被 害者支援センター・ ひょうご	事務局	事務局長

研究グループ名：性暴力被害者支援医療マニュアルの作成

氏名	フリガナ	所属機関等	所属部署等	役職 (身分)
----	------	-------	-------	------------

主田英之	ヌシダ ヒデユキ	兵庫医科大学	法医学講座	講師
田口奈緒	タグチ ナオ	兵庫県立尼崎総合 医療センター	産婦人科	部長
福岡ともみ	フクオカ トモミ	NPO 法人性暴力被 害者支援センター・ ひょうご	事務局	事務局長

研究グループ名：トラウマインフォームド（TIC）研修

氏名	フリガナ	所属機関等	所属部署等	役職 (身分)
大岡由佳	オオオカ ユウカ	武庫川女子大学	短期大学部心理・ 人間関係学科	准教授
井上美智子	イノウエ ミチコ	兵庫県立尼崎総合 医療センター	小児科	相談員
山田嘉則	ヤマダ ヨシノリ	クリニックちえのわ (精神科・心療内科)		医師
武藤恵美	ムトウ エミ	武庫川女子大学		研究調整員

氏名	フリガナ	所属機関等	所属部署等	役職 (身分)
中山健夫	ナカヤマタケオ	京都大学	健康情報学	教授
池田裕美枝	イケダユミエ	京都大学医学部付 属病院	産婦人科	特定研究員
荒木智子	アラキトモコ	京都大学医学部付 属病院	産婦人科	研究員
日吉和子	ヒヨシカズコ	京都大学医学部付 属病院	産婦人科	特定研究員
寺岡英美	テラオカエミ	医療法人メファ仁愛 会マイファミリークリ ニック蒲郡		医師
小西由紀	コニシユキ	京都大学	健康情報学	研究員
二宮清	ニノミヤキヨシ	洛和会音羽病院	理事	院長
野溝万吏	ノミゾマリ	洛和会音羽病院	産婦人科	医長
清水一美	シミズカズミ	洛和会音羽病院	産婦人科	助産師
椿真紀子	ツバキマキコ	洛和会音羽病院	産婦人科	助産師
細野真由美	ホソノマユミ	洛和会音羽病院	産婦人科	外来看護師
仙石美香	センゴクミカ	洛和会音羽病院	産婦人科	外来看護師

矢野阿壽加	ヤノアスカ	洛和会音羽病院	理事	理事・産婦人科医
田中真友子	タナカマユコ	洛和会音羽病院	患者さま相談センター	相談員

研究グループ名：SDoH地域資源連携グループ

氏名	フリガナ	所属機関等	所属部署等	役職 (身分)
周藤由美子	ストウユミコ	ウィメンズカウンセリング京都	京都 SARA	スーパーバイザー
武森紫織	タケモリシオリ	ウィメンズカウンセリング京都	事務局	スタッフ
川上陽子	カワカミヨウコ	ウィメンズカウンセリング京都	事務局	スタッフ

6. 研究開発成果の発表・発信状況、アウトリーチ活動など

6-1. シンポジウム等

年月日	名称	場所	参加人数	概要

6-2. 社会に向けた情報発信状況、アウトリーチ活動など

(1) 書籍、フリーペーパー、DVD

- ・『問題行動の背景をトラウマの視点から考えてみよう』（パンフレット）毎原敏郎、大岡由佳他、トラウマインフォームドケア学校プロジェクト事業、平成30年3月20日

(2) ウェブメディアの開設・運営、

・

(3) 学会（7-4.参照）以外のシンポジウム等への招聘講演実施等

- ・大岡由佳「トラウマについて - TICの視点から」『トラウマを多面的に理解する』兵庫県精神保健福祉士協会阪神ブロック研修会 2017年11月17日（於：西宮市民センター）
- ・大岡由佳「地域定着支援と対象者理解 - TICの視点から」2017年度よりそい専門研修会.一般社団法人よりそいネットおおさか.2018年2月8日（於：大阪社会福祉指導センター）

6-3. 論文発表

(1) 査読付き（ 1 件）

●国内誌（ 1 件）

- ・大岡由佳（2018）「精神科領域におけるTICの必要性」『精神保健福祉』vol.49.no.1, 日本精神保健福祉士協会誌.

●国際誌（ 0 件）

・

(2) 査読なし（ 0 件）

・

6-4. 口頭発表（国際学会発表及び主要な国内学会発表）

(1) 招待講演（国内会議 0 件、国際会議 0 件）

.

(2) 口頭発表（国内会議 0 件、国際会議 0 件）

.

(3) ポスター発表（国内会議 1 件、国際会議 0 件）

- ・大岡由佳・山田嘉則「トラウマ・インフォームド・ケアの射程—トラウマ理解に基づく人・地域・社会とは？」（ポスター発表）障害学会 第14回 於：神戸学院大学
2017.10. 28-29.

6-5. 新聞報道・投稿、受賞等

(1) 新聞報道・投稿（ 0 件）

.

(2) 受賞（ 0 件）

.

(3) その他（ 0 件）

.

6-6. 知財出願

(1) 国内出願（ 0 件）